

第3回京都三条会商店街ごみ減量ワークショップ 結果概要

第3回の目的 「ごみ減量取組等の結果及び今後の方向性について」

実施概要

日時：平成24年3月16日（金）20:00～（約1時間30分）

場所：ケーキとあっくん

参加者 ◆運営…4名（パシフィックコンサルタンツ株式会社）
◆商店街…13名（上田理事長をはじめとする各店舗）
◆許可業者…5名（新川耕市京都環境事業協同組合理事長ほか商店街のごみを収集する許可業者）
◆事業系廃棄物対策室

手法

パシフィックコンサルタンツより古紙回収実験及び意識調査の結果報告を行うとともに、全体討議形式で意見交換を行った。

今年度の取組を振り返って（来年度の方向性）

全体討議の意見を整理すると、以下の通りである。

1. 古紙共同回収について

今後も事業ごみ減量のために、古紙共同回収の本格実施に向けて、京都三条会商店街と収集業者（京都環境事業協同組合）と京都市で協議していく。

2. イベントごみについて

商店街で開催されるイベントでの分別・減量のために、取組を進めていく。
5月実施の地ビール祭や8月頃実施の屋台村では、リユースカップ・リユース食器の活用、ごみ分別コーナーの設置について、前向きに検討していく。また、7月実施の七夕夜市においても、ごみ分別に向けた取組を進めていく。

3. 商店街全体の意識向上に向けて

今後の古紙共同回収の本格実施に向けて、特に雑紙に対する減量啓発を徹底していく。また、啓発・周知にあたっては、京都市と京都三条会商店街理事会で行うなど、効果的な方法を検討・実施する。

【古紙共同回収等のごみ減量取組に関する主な意見】

- ・京都市の古紙共同回収の周知に対して、排出事業者の意識が低い。排出事業者の意識を高めれば、まだまだ回収量は増えるはずである。
- ・京都市の周知に際しては、商店街役員と共同で行うと効果が増すのではないかと。
- ・古紙共同回収の取組で、実際にごみを減らすことが出来た。京都市全体で取り組むことで、大きな減量が期待できるのではないかと。
- ・古紙共同回収の周知方法に課題がある。今後も継続的に続けるのであれば、雑紙の認識を浸透させる必要がある。
- ・回収場所については、特に問題がなかった。
- ・回収時間については、現状の午後9時よりも1時間くらい早い方が良いのではないかと。閉店後では、不法投棄や放火の心配がある。
- ・回収曜日は特に問題ないが、店舗ごとに収集業者との調整は必要である。
- ・回収頻度については、業種によって意見が大きく異なる。多様な意見を聞いて集約すべきである。
- ・今回の取組で、「雑紙」という資源物の分類を理解できた点は収穫である。
- ・商店街として、ごみ減量の意識はまだ浸透しきっていない。周知の方法も工夫しながら、見える形で継続していきたい。
- ・古紙共同回収は継続したいとの意見も多いので、出来るだけ早く具体的な話を進めていきたい。啓発活動についても、積極的に行いたい。

【古紙を回収した京都環境事業組合の所感等】

- ・古紙共同回収で排出された古紙については、異物が非常に少なかった。
- ・雑誌の占める割合が多かった。
- ・ダンボールは、容量の割に重量が軽く、採算性が悪い。段ボールと雑紙の回収を分けて回収するなど、効率的な方法を検討していったほうが良い。
- ・収集業者としても、古紙の回収量を増やすという視点ではなく、雑紙等の分別回収を促進することで、燃やすごみの収集量を減らしていきたい。

【イベントごみに関する主な意見】

- ・5月実施の地ビール祭では、リユースカップの取組や、ごみの分別コーナーの設置を検討したほうがよい。
- ・デポジット制度のような目に見える形の取組も必要である。
- ・7月頃の七夕夜市、8月頃の屋台村でも減量の取組を実施していくほうがよい。

